イドリ ス タウフィ ク 英国出身の元カトリック信者

:

明:

英国人の元カトリック宣教 が、クルア ンを み、ムスリムたちと触れ合った 果、イスラ ムに改宗します。

目: 事新改宗者ムスリムの逸 者と宗教的 威

より: マナ ル アブドル＝アズィ ズ

日25 Aug 2014

集日 24 Aug 2014

“あなたは、人びとの中信仰する者を することが最も しいのは、ユダヤ人と多神教徒であることを知るであろう。またあなたは、信仰する者に一番 の情を抱いているのは、「わたしたちはキリスト教徒です。」と言う者であることを知るであろう。これはかれらの に、司祭と修道士がいて、かれらが高慢でないためである。あなたはかれらが、使徒に下されたものを く 、自分の めた真理のために、 を目に溢れさせるのを るであろう。かれらは言う。「主よ、わたしたちは信仰します。わたしたちを 人の中に き留めて下さい。」” （食卓章82 83）

これが英国人の元カトリック宣教 、イドリ ス タウフィ クが、生徒たちにイスラ ムの　であるクルア ンを んだときに起きたことでした。そして、これが彼のイスラ ム改宗においての重要な一 だったのです。

カイロのブリティッシュ カウンシルでの最近の　で、タウフィ クはキリスト教徒としての行 や、バチカンでの5年 に渡る生活などの自身の 去について 悔はしていないことを明言しました。

　のブリティッシュ カウンシルで彼はこう述べています。“私は宣教 として人々の手助けをした数年 を しんでいました。しかしながら、心の奥底では何かがおかしいと感じ、本当に幸せとはいえませんでした。神の御意によって、幸 にも 数の出来事や偶然が重なり、私の人生はイスラ ムへと かれました。”

タウフィ クにとっての二度目の重要な　は、バチカンにおける　を辞任したときでした。それはエジプト旅行の でした。

“私はエジプトに しては、ピラミッドやラクダ、砂漠やヤシの木といったイメ ジしか抱いていませんでした。私はフルガダへのチャ タ 便に りました。

そこがヨ ロッパのビ チにそっくりだったことに　を受けました。そこからカイロへのバスに り み、人生の中で最も素晴らしい1　を ごしたのです。

そのときが、私にとっての初めてのムスリム、そしてイスラ ムとの出会いでした。エジプト人は しく、思いやりに ちていましたが、同 にとても力 い人 でした。

彼は述べます。“一般的な英国人同 、当 の私のムスリムに する知 はテレビで　きするような、自爆テロや　士といった印象に基づいたもので、それはイスラ ムが　に ちた宗教であるという偏 につながりました。しかし、カイロに着いた私はこの宗教がいかに美しいものであるかを　しました。道ばたで商 を む素朴な人々が、モスクから り く礼 への呼びかけを耳にするなり、商 を一旦中断し、アッラ に立ち返って礼 を捧げるのです。彼らはアッラ の存在と御意に する い信仰を持っています。彼らは来世において天国に入

ることの出来るよう、祈り、断食し、困 者たちを助け、マッカへの巡礼を　るのです。”

“ 国した私は宗教を教える者としての　を再 しました。英国における唯一の　教科は宗教教育です。私はキリスト教、イスラ ム、ユダヤ教、 教などを教えていました。それゆえ、私は学生たちに教えることの出来るよう、 日それらの宗教についての　をしていましたが、学生たちの多くはアラブ人のムスリム移民たちでした。イスラ ムについて教えるということは、私に多くを学ばせました。

“他のやっかいな10代の学生たちとは なり、彼らはムスリムたちの姿を示す良い模 でした。彼らは礼 正しく 切でした。私たちの には友情が芽生え、断食月であるラマダ ンになると、彼らは私の教室で礼 をしても良いかと 可を求めてきました。

“都合の良いことに、私の教室はカ ペットが敷かれた唯一の教室でした。それからの一ヶ月 、私は彼らの礼 する姿を ろから眺めていました。彼らを激励するために、まだムスリムではなかった私自身もラマダ ンの断食をしました。

“ある 、 クルア ンの翻 を んでいたとき、次の章句に差し かりました。

“??”

自分でも いたことに、私は 目から が溢れてくるのを感じましたが、生徒たちに 付かれないように必死に しました。”

一大事件

しかし、彼の人生における　が、米国で起きた2011年の9月11日のテロ事件を に れました。

“翌日、私は地下 に っていると、いかに人々がひどく怯えているかに が付きました。私自身、同 の事件が英国でも起こるのではないかと怖れていました。当 の欧米の人々

は、テロはイスラ ムのせいだとして恐怖心を抱き始めていました。

“しかしながら、以前からムスリムとの交流　のある私は、 の方向性に みました。私はこう考えたのです。「なぜイスラ ムなのか?
なぜ私たちは一部のムスリムによるテロ行 を非 しておきながら、これまで同 のことをしたキリスト教徒に しては、テロとして非 しなかったのだろうか?

“ある日、私はこの宗教についての　を深めるため、ロンドン最大のモスクを れました。ロンドン セントラル モスクに入ると、元ポップシンガ のユ スフ イスラ ム氏が、イスラ ムについて人々と っていました。私は彼に、「ムスリムになるには、　何をすれば良いのですか? 」と ねました。

“彼は、ムスリムになるためには唯一神の存在を信じ、一日5回の礼 をこなし、ラマダン月の断食をしなければならないと答えました。私はそれらを既に信じ、ラマダ ン月の断食さえもやっていると言いました。すると彼はこう ねました。「では、なにを待っているのですか?
何かがあなたを引き留めているのですか? 」私は言いました。「いえ、私には改宗する がないのです。」

“その瞬 、アザ ン（礼 への呼びかけ）が り き、人々は皆立ち上がって礼 の　を始めました。

“私は ろに座り、泣きじゃくっていました。そして自分にこう言っていました。「一体、私は を そうとしているのだ? 」

“彼らが礼 を ませると、私はユ スフ イスラ ムのところへ行き、改宗に必要な言 を教えてくれるよう みました。

“それらの言 の英 の意味を教えてもらった 、私はアラビア で、「アッラ 以外に神はなく、ムハンマドはアッラ の使徒である」という言 を唱えました。”
タウフィ クは をこらえつつ りました。

“イスラ ムの庭 ”

こうして、彼の人生は　しました。 在エジプトに在住するタウフィ クは、イスラ ムの教についての本を著しています。

イスラ ムについてのシンプルな概 である彼の著 「喜びの庭 」を著した理由について、タウフィ クは しもがイスラ ムはテロの宗教や憎 の宗教ではないとは述べてはいるものの、それが何であるかは 明されてはいないと述べます。

“それゆえ、私は非ムスリムの人々がイスラ ムの基本教 について知ることの出来るよう、この本を くことにしました。私は、いかにイスラ ムが美しいもので、特 な宝がそこにあること、そしてその中でも最も重要なものがムスリム同士の同胞 であることについて くことを みました。 言者はこう述べています。「同胞への微笑みでさえも、喜なのである。」

タウフィ クは 在、 言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）についての本を　中であると言います。それは、彼に する他の多くの本とは なったものになるそうです。

彼によると、世界にイスラ ムの真のイメ ジを める「最善かつ最速の方法」とは、　社会で模 的な人物になることであるそうです。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/586

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。